

給食だよ!

# えがおのじかん



平 28 年度学校給食週間号

丹波山村学校給食センター

栄養教諭：宮島ゆき

あたら とし むか がっ き  
新しい年を迎え、3学期もスタートしました。まだまだ  
さむ きび がっ あた た からだ なか あた  
寒さの厳しい1月、温かいものを食べ、体の中から温め  
ることを心掛けましょう。3学期は学年のまとめとなる学  
期ですが、風邪をひくなど体調を崩しやすい時期です。栄養  
と休養をしっかり取り、体に気を付けて元気に3学期を  
過ごしましょう!



## 中学3年生・小学6年生の希望献立

ちゅうがく ねんせい しょうがく ねんせい き ぼうこんだて  
中学3年生・小学6年生、それぞれの学校生活も、残り3ヶ月になりました。給食  
センターでは、残り少ない給食の時間が少しでも楽しいものになるよう、8人の卒業  
生が考えた献立を、給食に取り入れることにしました。

にん た ぼ しょうがっこう ちゅうがっこう まな きゅうしよく じかん かていか じゆぎょう  
8人は丹波小学校・中学校で学んだこと（給食の時間や家庭科の授業など）を  
生かして、一食分の献立を考えてくれました。小学6年生の考えた献立は2月・

ちゅうがく ねんせい かんが こんだて がっ じっし よてい こんだて かんが  
中学3年生の考えた献立は3月に実施予定です。みんながどんな献立を考えてくれ

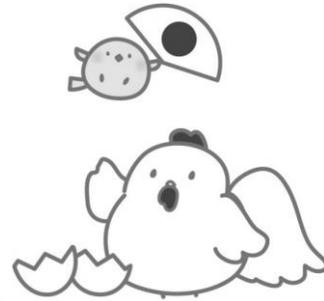
たのか楽しみにしててくださいね。また、希望献立に

入れられなかった8人が大好きなメニューは、

1月から順次登場しています。こちらもお楽しみに。

※献立予定表にある、★印は中学3年生の好きな

メニュー、☆印は小学6年生の好きなメニューです。



# 全国学校給食週間(1月24日~30日)

とつぜん 突然ですが、みなさんは、日本の学校給食がどのくらい前にはじまったか知って  
いますか? 美は、今から128年前の明治22年にはじまりました。当時は、貧しくて学校に  
行けなかったり、お弁当をもってくるのができなかったりする子どもたちがたくさん  
いました。そのため、どんな子どもたちでも学校に通えるようにと、山形県の鶴岡市の  
お寺の中に「忠愛小学校」という学校ができました。その小学校で日本ではじめて  
の給食が出されるようになったのです。



学校給食がはじまった、  
当時の献立って、どんなもの?



学校給食のはじまった

当時の献立は、

おにぎり・焼き魚・煮物

(煮びたし)・漬物

などでした。



忠愛小学校をつくるためにかかわったお寺のお坊さんたちが、町  
を歩きお米や野菜を集めたり、浄財(寄付金)から食材を購入し  
て、給食を提供していたそうです。

時代が変わっても、みなさんのためにおいしいものを提供したい

という想いは変わりません。現在では、学校給食は『生涯に渡って

健康に過ごすための食に関する知識やマナーなどを身に付ける』という

役割を担っています。

第36回(平成23年度)「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールで、内閣

総理大臣賞を受賞した作文作品を紹介します。読んでみてくださいね。



♪ 学校給食週間のメニュー ♪

25日 (水)

丹波山の恵み給食

丹波山村で昔から食べられて  
いる料理や特産物を使った献立  
です。地域の方々から使う食材  
や調理方法を教えていただきま  
した。お楽しみに。

『かてめし』には、市川三郷町  
の特産物『大塚人参』

も使っています。



27日 (金)

『味めぐりツアー給食』総集編!

今年度からはじまった『味めぐ  
りツアー給食』で人気だった献  
立が再登場! どこの都道府県の  
料理か分かるかな!?

正解は、給食の時間に!



24日 (火)

明治22年の給食

学校給食がはじまった当時  
の献立は、おにぎり・焼き魚 漬  
け物(煮物や煮浸し)などでした。  
今回は、山形県の郷土料理  
『芋煮汁』と『牛乳』を付けた  
しました。

26日 (木)

長崎県の郷土料理

丹波山村の給食でも定番!

『ちゃんぽん』、浦上地区でつく  
られた郷土料理『うらがみそぼ  
ろ』、給食センター手づくり『カ  
ステラ』が登場します。詳細は、  
掲示資料を読んで  
くださいね。



30日 (月)

山梨県の特産品

山梨県を代表する豚肉『甲州富士桜ポーク』を使ったカレーライス。北  
杜市(旧:明野村)の特産品『切干大根』を使ったサラダ。  
小菅村でつくられた『はちみつ』を使ったゼリーをつくりま



「ありがたいねえ。」

宮城県涌谷町立涌谷第一小学校六年

中村 早希

三日目、凍りつきそうになる両足をカタカタ震わせながら考  
えた。

(そうだ、あの日も、私はごはんを残していたんだ。しかも、  
私達の学年の残飯量は、毎日、目立っていた。)

あちらこちらから、せきをする音が聞こえ、避難所として用意  
された教室に響いた。そして、小さい子が泣き出す。

「おなかへったよお。」  
その子達のお母さんが、二人をだっこして、教室の外へ出てい  
く。

「すみません。」  
小さな声だった。私は心の中で返事をする。

(誰も迷惑なんて思っていないよ。)

丸二日、食べ物をおにぎりにしていい。突然、恥ずかしいという思  
いが押し寄せてきた。自分の意志で、食べ物をそまつにしてき  
たことに対する恥ずかしさ。

「え、本当に。やったあ、やったあ。」  
「もらえるんだって、おにぎり。」  
(うわあ、三日ぶりのおにぎり。)

配給されたおにぎりを両手を器にして、半分腰を曲げて受け  
取った。いや、頂いた。でも、あれほど待ちのぞんだおにぎり  
なのに、食べるのがもったいないように感じられた。友達と、  
こんな会話をしながら、寒さや恐怖とたたかっていたのだ。

「食べ物食べられるようになったら、最初に何食べたい。」  
私達の答えは、三人とも、おにぎりだった。

この時、私の耳に入ってきた言葉、  
「ありがたいねえ。」

近くで窓の外をじいっと見つめながらおにぎりを食べていた  
おばあさんの言葉だった。この言葉によって、手の中のおにぎりが、  
よりいっそう輝いて見えた。感謝の心が、つやつやと光っている。

友達と顔を見合わせ、どちらからともなく、口にした言葉。  
「食べるよ、食べるよ、せえのっ。」

口にしたおにぎりの味は、たぶん、一生忘れないと思う。  
「一つ夢、かなったっちゃあ、私達。」

お米の味をかみしめながら、自衛隊の人に手を合わせ、何度も何度  
も(ありがたいと)。を繰り返した。

今、思う。あの日のおにぎり、あれは希望だった。あのおにぎり  
があつて、私がある。おなかへった、と泣いていた二人の命が  
ある。寒さとたたかっていたお年寄りの方々の命がある。あれは、  
千二百の尊い命を救った、まさに命のおにぎりだったと思う。  
多くの手と、その思いが実らせるお米だからこそ、私達に希望を  
与えてくれ、明日を感じさせてくれたのだと思う。

支え、支えられるための力を生みだしてくれたお米に感謝したい。  
(ありがたいねえ。)